

## 平成27年度「研究大学強化促進事業」フォローアップ 進捗状況概要 慶應義塾大学

### 目的

これまで十分支援することができなかった「次の研究プロジェクトへつなぎ、発展させていく」過程の支援体制整備を重点課題として、現在行っている研究プロジェクトの支援体制の強化に加え、次の研究プロジェクトや産学共同開発プロジェクトなどへ展開し発展させ、「真のサイエンスの確立」や「新しいテクノロジーの創出」をもたらすことのできる、世界トップレベルの研究大学としての体制の構築を目指す。

### これまでの実績・進捗状況

#### Aメニュー

- 平成25年度に6名、平成26年度に新たに3名(計9名)、平成27年度現在さらに1名を加え、計10名の専門員URAを重点分野に応じ配置。専門員URAと事務職員URAの連携により研究支援体制を強化
- 専門員URAの所属長評価による昇給の査定を実施、能力に応じた処遇、評価制度の導入

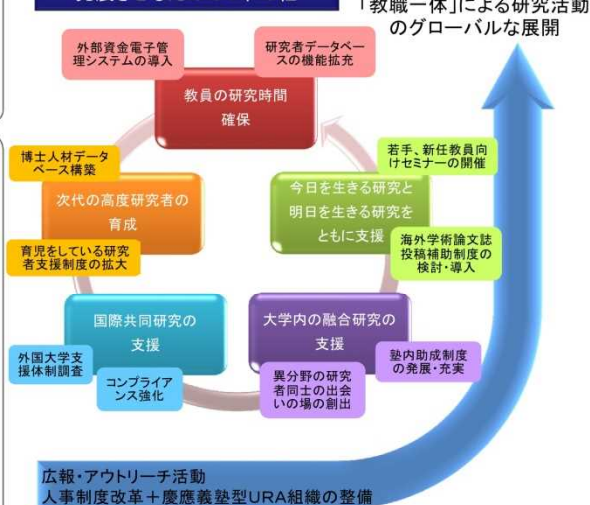
#### Bメニュー

- 外部資金電子管理システムの導入
- 研究者情報データベースの機能拡充
- 若手、新任教員向けセミナーの開催/競争的資金採択率向上への取組み
- 研究費の受入に伴う各種文書の見直し
- 海外研究機関支援体制調査、国外出張/招聘旅費支援  
→海外研究連携拠点(7拠点)の形成・拡大につながった。
- 国際的な研究支援業務遂行能力を向上させるための研修等の実施
- 育児をしている研究者支援制度の拡充
- 研究者/研究プロジェクト紹介動画制作等、広報・アウトリーチの積極化

### 今後の課題と展望

- 今後の課題:(国際的サポートを含む)研究支援人材の更なる充実・博士人材の有効活用・十分な研究スペースの確保等  
→課題の克服に向けて、研究力強化の方針の下、慶應義塾を構成する教職員が一体となって、引き続き粘り強く諸事業を継続し、発展させていく。
- 今後の展望:研究大学強化促進事業等を展開し、慶應義塾発の学問の成果を生み出し、世界のどこであっても慶應義塾の研究者が研究活動に邁進できる体制を整え、また、若い独創的な研究者を輩出して、社会に貢献する。

### 慶應義塾の研究活動を飛躍的に発展させるための5本の柱



### フォローアップ結果

評点区分：おおむね順調に進んでいる

#### 全体を通した所見

- これまでの課題であった「次の研究プロジェクトへつなぎ、発展させていく」過程の支援体制の整備を重点課題として据え、着実な取組が推進されている。5本の柱それぞれを深耕しつつ、取組間の連携もおおむね順調に進んでいることが確認された。  
今後は、本事業によるインパクトのある取組・成果を期待したい。

#### 特に優れた点

- URA 組織のチームとしての活動内容・方向付けが明確化されており、研究の入り口から出口までを一貫して支援する体制が整備されている。
- 国際共同研究支援のために実施した国内外の機関に対する調査・関係構築のための URA を中心とした活動が豊富であり、今後の具体的な成果を期待したい。

#### 期待する点

- URA へのインセンティブシステムやキャリアパスを早期に明確にし、制度の更なる効果的運用を期待したい。